

北海商科大学 学報

Vol.
05

2008.9.29



Contents

p02~03

キャンパスニュース [自転車女子スプリント] 佃咲江さん北京五輪出場
[2008年度] 海外留学プログラムと外国語学習 ほか

p04~05

特集『フィールドワーク』 確かな学びの実感をつかむ

p06~07

キャンパスライフ 『教育会館』を供用開始
はつらつ商科大生 村上 護くん(商学科4年) ほか

p08

研究室から「日本の取引制度とチャネル戦略」 小堀 雅浩教授
2008年度 後期行事予定 ほか

校舎南側に『教育会館』が完成

校舎南側のハート広場に面して、
2階建ての新施設『教育会館』が完成しました。
学生の課外活動を支える拠点として、
また、地域住民も利用することのできる憩いの場として、
9月1日から供用を開始しています。
p06では、施設の概要や機能などについて
詳しくお伝えします。

本学研究生の佃咲江さん 北京五輪自転車女子スプリントで12位

8月に開催された北京オリンピック自転車女子スプリントに、本学研究生の佃咲江さんが日本代表として出場しました。本学の名前と日の丸を背負い、世界の大舞台で12位という堂々の結果を残しました。

美幌町出身の佃さんが自転車競技を始めたのは、2004年に本学北見キャンパスに進学してからのことです。それまで佃さんは、岡崎朋美選手などを輩出した釧路星園高校でスピードスケートに励んでいました。自転車競技に転向したのは、星園高校スケート部の恩師からのアドバイスがあったからだといいます。入学直後の5月に行われた東日本学生選手権では、スケートで培った脚力を発揮



佃さん(左)と森本学長(6月21日道自転車競技連盟の激励壮行会)

し、個人追い抜きで優勝、早くもその素質を開花させました。

その後、2005～2007年の全日本アマチュア自転車競技選手権大会では3連覇、2007年のトラック・アジアカップ日本ラウンドで優勝を果たすなど、日本、アジアのトップ選手となりました。そして、2007年6月27日、南アフリカのケープタウンで開催された自転車トラック競技の世界選手権B大会で優勝し、北京オリンピック自転車女子スプリントの出場枠を獲得しました。正式に決定されたのは今年5月7日、競技を始めてから5年目でオリンピックという大舞台にこぎつけました。

佃さんのオリンピックまでの道のりは、決して平坦ではありませんでした。2006年から2007年春にかけてスランプに陥り、練習中のケガに見舞われることもありました。そんな数々の障害を乗り越えての出場です。

6月21日、市内のホテルで、北海道自転車競技連盟による佃さんの激励壮行会が行われました。本学森本正夫学長や本学教職員も参加し、北京での活躍を願い、励ましの言葉を伝えました。席



上で佃さんは「北京では自分の力を出し切れるように頑張ってくるので、応援よろしくお願いします」と力強い抱負を述べました。

この後、日本やフランスで最終調整を行い、いよいよ迎えたオリンピック本番。佃さんが参加した自転車女子スプリントは、8月17日が本番初日です。1回戦に臨むための予選は、1名ずつ走る200メートルタイムトライアルで、佃さんはこれを12位で通過。続く1回戦は1対1で、予選を1位通過した優勝候補の一人と対戦し敗退、同日の敗者復活戦も制しきれず、入賞を逃します。19日には、今大会最後となる9-12位決定戦を、佃さんは最後まで走り抜きました。

8月29日、地元美幌町で佃さんは報告会を行いました。12位という最終成績に悔しさをにじませながらも、良い経験を積み次の目標が見えたことは収穫と話しました。2012年のロンドンオリンピックでのメダル獲得に向け、すでに佃さんの心は走り出しています。

また新たな歴史を刻む 平成20年度北海商科大学入学式挙行

4月3日、平成20年度入学式が札幌パークホテル(札幌市中央区南10条西3丁目)3階パークホールにてとりおこなわれました。保護者、来賓、教員列席のもと、新入学生187名および来日留学生19名が着席し、修礼から学歌斉唱、森本正夫学長による式辞、入学生代表宣誓、来賓祝辞などを経て、式はつつが

なく進行しました。

来賓祝辞では、学校法人北海学園と留学協定を結んでいるカナダのアルバータ州レスブリッジ大学学長・副総長、ウィリアム・H. ケイド博士より心よりの御祝辞をいただきました。

また式終了後には、パークホテルよりバスにて北海商科大学へ移動し、保護



入学生代表による宣誓

者向けのキャンパス見学会が催されました。

土曜公開講座 「世界中の北海道」 開催



北海道新幹線と観光活性化をテーマとした本学佐藤馨一教授の講演

5月24・31日、6月14・28日、7月12日の全5回の日程で、土曜公開講座「世界中の北海道」を本学8階で開催しました。中国社会科学院世界経済・政治研究所の王徳迅所長助理、北京大学の何怀宏教授など、内外の識者と本学教員が講師を務めました。

北海道からアジア、世界を考えるため、これまで以上に北海道に焦点をしばった講座に、毎回70～80名ほどの参加がありました。

日本観光学会 第97回全国大会 本学で開催

6月7、8日の2日間、日本観光学会の第97回全国大会が、本学で開催されました。初日は「観光と環境」を共通論題とした記念講演と研究発表があり、本学の菊地均、原田房信両教授も、自由論題で共同発表を行いました。2日目は千歳方面への視察会で、二酸化炭素削減のための植樹を含むエコツアーとして実施。会期を通して、全国から集まった研究者が活発な討論、意見交換を行いました。

本観光学会第97回全国大



黒柳俊雄 北海道大学名誉教授による記念講演

夏のオープンキャンパス開催 今年度から 年3回開催へ

8月4日、受験生にキャンパスを公開し、大学の体験をしてもらうオープンキャンパスが行われました。昨年までは夏秋の年2回開催でしたが、今年は新たに6月が加わり、年3回開催へと変更されました。

午前11時の開始前後から集まり始めた参加者は、受付で資料や記念品を受け取り、3階で入試の概要や学部、学科の特徴などの説明をひととおり受けたあと、学内施設の見学や模擬授業の体験に向かいました。

4階では韓国語、中国語、英語の語学系授業が随時実施され、参加者は外国人と会話できることの楽しさを実際に経



韓国語の模擬講義後、質問を投げかける参加者

験しました。さらに5階では専門科目の模擬講義として企業経営論、観光事業論、環境経済論が順次おこなわれ、参加者は高校とは違った大学の講義の片鱗にふれる体験をしました。

2階に設置された相談コーナーでは、入試関連のほか学生生活や授業、留学、就職などに分かれて、それぞれの担当や在学学生が、訪れた受験生やその家族のさまざまな質問に対応していました。

2008年度 日・中・韓・加 海外留学プログラムと外国語学習



レスブリッジ大学での短期留学プログラムを終え、修了証書を手にする学生

海外語学留学の交換プログラムは、交流協定校である中国の山東大学威海分校、煙台大学、韓国の大田大学校の3校と本学との間で、本学の開学以来実施されているものです。

2008年度の訪日留学生は、中国の2大学からそれぞれ6名ずつ、韓国から7名の計19名で、4月から1年間本学で学びます。語学プログラムのほか、留学生の希望に沿って、より多くの専門科目

の履修が本年度から可能になりました。

一方本学からは、山東大学威海分校に13名、煙台大学に17名、大田大学校に12名が、およそ半年間の留学生活を送るべく旅立ちました。中国組は8月6日～1月21日、韓国組は8月27日～2月7日の日程で、語学を集中的に学びます。

また、学校法人北海学園はカナダ・アルバータ州レスブリッジ大学と1986年から学生交換事業を続けており、隔年で相互に短期留学生を派遣しています。今年は北海学園が派遣する年で、本学学生6名が北海学園大学の学生とともに、8月8日～9月2日の間、カナダでの語学教育プログラムを体験しました。

1年次に必修として語学を集中的に学ぶ本学では、年を追うごとに新入生の語学学習に対する積極性が増しています。上級生では資格の取得など学習の成果が具体的に現れ、本学全体の語学レベルは確実に向上しています。

フィールドワーク 確かな学びの実感をつかむ

フィールドワークとは、
学術研究における
実地調査を指します。
調べ、話し合い、
実地で見聞する。
講義での学びに
確かな実感をもたらす
フィールドワークを、
2008年度前期に行われた
3つの取り組みをもとに
紹介します。



ネットワークビジネスの 実体的なイメージを手に入れる

コマース研究ゼミナールⅡ (菊地均 教授)
商学科 第5 Semester

菊地教授のコマース研究ゼミナールⅡではeコマースを学びます。eコマースとはインターネット上で行われる電子商取引のことです。15名のゼミ生は、半期をかけてeコマースの概要、問題点などを学び、調査や討論を重ねてきました。

半期のゼミの総括として7月29日、札幌を中心に道内のeコマースシステム開発を行う市内のシステムデザイン開発(株)を訪れ、現場の開発者に話を聞きました。フィールドワークは同社が経済産業省から委託先として選ばれた平成20年度『電子商取引・電子タグ基盤構築事

業』の話を中心に進められました。これはニセコ町の農業物産直売所『ニセコビュプラザ』を中心としたプロジェクトで、農家およそ60軒をネットワークで結びながら、直売所の端末から生産履歴などの付加価値情報を発信しようというものです。

南貴之くん(商学科3年)は「フィールドワークは自分の足で、見たことのない世界を体験できます。主体的に考える、そうすれば学んだことを社会に役立てることができると思いました」、砂田元気くん(商学科3年)は「ITについて漠然

現地でしか得られない

社会文化ゼミナール (加藤由紀子 准教授)
商学科・観光産業学科 第1 Semester

加藤准教授の社会文化ゼミナールを履修したのは、1年生19名と訪日留学生7名の計26名。本学と地域交流協定を結ぶ栗山町をフィールドに、プロジェクトにおけるマネジメントやコミュニケーションなどを学びました。学びと社会に対する奉仕を合わせたこの手法を、サービスラーニングといいます。

ゼミ生は、「日中韓の漬物交流」、「ブランドかぼちゃ『栗マロン』の商品開発」、「栗山産ジャガイモのコロッケ販売」、「老舗酒造メーカーのオーラルヒストリー」という4つのプロジェクトを進め、成果



eコマースの実際と最新の取り組みについて説明を受けました

としていたイメージがはっきりして、もっと興味をもてました」とそれぞれ感想を話します。

「実際の経営には理論ではなく実践が要求され、人々の生活に立った視点が必要。ネットワークは目に見えるものではないので、きちんと認識するには実際に事業者の話を聞くことです」とフィールドワークの重要性について菊地教授は話します。

貴重な生の声

物としてパンフレットやポスターを作成しました。プロジェクトの核となったのが、5月21日に栗山町で行ったフィールドワークです。それぞれのテーマに基づいて、地元の生産者や企業に取材を行いました。

「学びの実感として、現地に行かなければわからないことがあります。失敗があるとわかって、軌道修正までのプロセスを学ぶ。学んだことをどう生かしたかがフィールドワークのゴールで、そこに至るまでの道は1つではないんです」と加藤准教授。ゼミの最終回では成果



ブランドかぼちゃの生産者に取材する学生

のプレゼンテーションを行いました。栗マロンのプロジェクトに携わった井上拓也くん(観光産業学科1年)は「地域の活性化をテーマに、ゼロから考えました。資料を読んでもわからない生の声がわかり、貴重な経験だと思います」と話します。

実際の企業に学ぶ人的資源の重要性

人的資源管理論Ⅱ (堤悦子 准教授)
商学科 第5 Semester

人的資源管理論Ⅱでは、経営資源のひとつである“人”をどのように生かすかを考察しています。7月16日、希望する学生4名が、洋菓子製造販売の(株)きのとや本社工場を訪れ、社長へのインタビューを行いました。企業インタビューは、講義での考察を実際の企業経営に照らして実証するための、重要なフィールドワークです。

フィールドワークに訪れた学生は、社長から会社の概要や経営理念などについて説明を受けた後、工場見学、工場責任者との質疑応答も行いました。「きの



無駄のない生産ラインに目をみはります

とやで働くすべての人の幸せを実現することが会社の目的」という担当者の言葉と現場での体験から、企業の成長と社員の成長は深く関係しているという実感を学生は得たようです。最後に工場責任者は「新入社員は企業に新しい刺激を与えます。みなさんには企業にとって絶対に入れてほしい人になってほしいです」と語りかけました。

田中裕哉くん(商学科3年)と片倉直哉くん(商学科3年)は「企業における人的資源の大切さ、また社会人としての基本的なスタンスなどが実感できました」とフィールドワークの成果について話します。片倉くんは「講義で学んだことを基に仮説を立て、違った答えが返ってくると新鮮なおどろきがあります」と感想を結びました。

「抽象的な座学を経て、フィールドワークは学びに具体性をもたせます」と堤准教授。確かな学びの実感が、実地調査にはあります。

研修施設としての北見キャンパス初の合宿集中講義を実施

7月17日から20日まで、北見キャンパスを使用した初の合宿集中講義が行われました。参加者42人は、8月に中韓両国への留学をひかえた留学中国語履修者30人と留学韓国語履修者12人で、それぞれ中国社文化特講と韓国社文化特講(各1単位)を受講しました。きちんと管理が行き届いた北見キャンパスはプレ留学といった雰囲気、周辺にはキタキツネやオジロワシも生息し、札幌キャンパスでは想像もつかないほど恵まれた自然環境でした。連日曇りや雨の天気でしたが、例年とは雰囲気を変えての講義に、試験成績が大幅にアップしました。19日の講義終了後には焼肉を食べ、翌20日は阿寒湖をまわり帰途につきました。



PHOTO 2008

テレビCMに学生が出演しました

6月17日、2009年度入試に向けた本学TVCMの撮影が行われました。出演は本学学生8名で、1名ずつ「アジアを学ぶ理由」について話す様子を学内各所で撮影しました。CMは7月から放映され、本学ホームページでは8タイプ全てを視聴することができます。



無駄のない生産ラインに目をみはります

新施設
完成

学生活動と地域交流を支える新たな拠点

『教育会館』を供用開始

校舎南側のハート広場に面して新施設『教育会館』が完成し、9月1日から供用を開始しました。教育会館と校舎との間は雨除けが渡され、天候の悪い日でも濡れずに行き来することができます。ますます活動の幅を広げる学生サークルなど課外活動の場としてはもちろん、一部は地域住民も利用可能で、地域交流も視野に入れた自由度の高い施設となっています。

施設は2階建てで、1、2階ともに窓を大きくとった明るいつくりとなっています。内部は主に3つのスペースからなります。



1階の大部分を占めるのは、地域住民も利用可能なコミュニティスペースで、学内の交流会などにも適した広さをもちます。また、身障者用を含むトイレが設置されています。

2階に設置された教育活動施設1、2は、主に課外活動団体など学生の活動場所として活用されるスペースです。教育活動施設1は、サークル活動に適したつくりとなっています。椅子やテーブルのほか、サークルごとに使用できるロッカーが置かれています。パーティションのない開放的な空間で、サークルの垣根を越えた交流が期待されるスペースで

す。教育活動施設2はコンパクトなスペースで、主に会議室としての機能をもちます。

本学では現在、学生による自治活動の基盤が形づくられつつあります。



地域住民も利用可能な1階スペース



ロッカーも置かれた2階教育活動施設1



会議室の機能をもつ2階教育活動施設2

教育会館を学生と情報が集まる活動の拠点として、自治活動の活発化と発展が期待されます。

四川大地震
募金活動

学生としてできることを

中国語サークルの取り組み

5月12日に発生した四川大地震は、世界最大級の被害をもたらしました。少しでも被災地の復興を助け、被災について知ってもらいたいと、中国語サークル



5月24日、土曜公開講座会場前の募金活動

『ファンファンシー』は中国人留学生とともに募金活動を行いました。5月28、29日は学生や教職員を対象に、募金箱とピラを手に学内を回り、土曜公開講座のあった5月24、31日にも、来場者に募金を呼びかけました。

中国留学の経験をもつサークル代表の堀内真希さん(観光産業学科2年)は、「地震国に住む私たちは被災の様子が想像できましたが、地震を経験したことのない中国人留学生では、地震や被災

に対して実感が湧きづらいという実情がありました。

日本と中国の奉仕活動に関する意識の違いもあります。日本の大学生はどう動くかということを見せたいと思いました」と話していました。

予想より多くの学生が快く協力してくれたこともあり、4回の活動で集まった募金は122,223円に。募金は6月上旬に中国の駐札幌総領事館を通して被災地へ送られました。



はっらっ 商科大生

信頼される教師になりたい

教職という確かな夢をもち、本学に入学した村上くん。これまでの出会いや大学生活、目標とする自分などについて話を聞きました。



商学科4年
村上 護くん

—なぜ本学に入学したのですか

小・中・高と先生に恵まれ、そのせいか自然に教職という仕事にひかれていきました。大変だけど、やりがいのある職業だと思えます。札幌東商業高校に通い、進学先に本学を選んだのは、道内で簿記、基礎ビジネスなど商業科目を教える高校に、最も多くの教師を輩出しているのが本学だったからです。

—大学生活で印象深いことは

2、3年次に、大学祭の実行委員を務めたことです。2年次は札幌キャンパス初開催の年で、大変だったけれど楽しかったですね。でも僕には、責任感、義務感でひとり先走ってしまうところがあって、後に「もっと相談してくれれば良かったのに」と言われ、仲間と協力することの大切さを改めて実感しました。

たのに」と言われ、仲間と協力することの大切さを改めて実感しました。

—高校と大学の違いについてどう思いますか

大学は考え方を学ぶところだと思います。高校までは“寄り道”が好きではなかったんです。ですから、大学では視野を広げることをめざしました。大学は、物事の捉え方が自分とまったく違う人と出会って面白いです。

—5月に教育実習があったそうですね

5月8日～21日のおよそ2週間、母校での実習でした。高校生と接していて感じたの

は、自分の軸がしっかりしていないと伝わらないし、信頼してもらえないということ。“自分から人に気持ちや考えを伝えることがとても大切なんだ”ということはどうしても伝えたくて、最後の日に時間をもらいました。話の間、みんな真剣な目で聞いてくれました。感じ取ってくれたんだなと思いましたよ。

—どんな先生になりたいですか

第一志望は高校の商業と公民の教員です。教職に就くことができれば、生き方や人として大切な部分を生徒に伝えていきたいです。「この先生の言うことだったら、大切なんだろう。意味があるんだろう」。生徒にそう思ってもらえる先生になりたいです。



母校で教育実習中の村上くん

体育祭
開催

スポーツを通して深まる交流

第3回北海商科大学体育祭



7月19、20日の2日間、西区体育館で、第3回北海商科大学体育祭が開催されました。体育祭は、スポーツを通じて学生の交流を深めることを目的として、体育祭実行委員会が企画・運営を行っています。体育祭に参加した学生は200名にも上りました。

まだ知り合いの少ない1年生は語学のクラスごとのチーム、2年生以上は友人同士でチームを組み、男女別にバスケット、バレー、サッカー、3種目ごとのポイント合計で総合優勝を競いました。試合中の学生の表情は真剣そのものです。

実行委員長の中居裕作くん(商学科2年)は「もともと行事ごとが大好きで、大学を楽しくしたいという思いがありました。参加者のとても楽しそうな顔を見ることができて良かったです」と話していました。

PHOTO 2008

訪日留学生 初めてのガイダンス

4月3日の入学式終了後、中国・韓国からの訪日留学生19名がガイダンスを受けている様子です。まだ日本に来たばかり、今日から新しい大学生活がはじまります。



日本の取引制度と チャンネル戦略

商学科専門科目担当・教授 小堀雅浩



小堀 雅浩 (こぼり・まさひろ)

1951年北海道稚内市で生まれる。北海道高校、早稲田大学商学部、早稲田大学大学院商学研究科(マーケティング専攻)を経て、1982年から北海学園北見大学、北海学園北見短期大学、2006年から北海商科大学(校名変更)に在職。本学では「マーケティング」「流通論」などの科目を担当。

日本の流通機構には、業者間取引における種々の制度が存在します。この取引制度とは、取引単位、価格、受発注、受け渡し、配送、決済および取引先資格、取引制限などに関して標準的方式の設定や取り決めを行い、取引当事者に共通に適用するものであり、取引の効率や公正性を高める働きを持ちますが、反面また、主導権を握る業者の方針や政策が強く反映される私的な制度です。

従来、日本で定着してきた取引制度は、その多くがメーカーにより導入されました。それは、主に戦後の高度経済成長期に発展を遂げた消費財メーカーが、卸売業と小売業を活用して自社製品の全国的流通網を構築する仕組みとして設計したものです。これには、各地域の卸売業者や小売業者を組織化する販社や特約店・代理店制、標準的な小売価格と卸売価格を表示する建値制、特約店・代理店や小売量販店に仕入金額の一部を様々な基準と名目で払い戻して価格とマージンを調整するリベートや販促金、売れ残りや廃番品を引きとる返品制、そして委託仕入と派遣店員制、手形

決済などがあり、これらは家電、医薬品、化粧品、加工食品・飲料、日用雑貨、アパレルなど広範な業界に拡がり、日本型マーケティングのチャンネル戦略や価格戦略の骨格を形づくってきました。

しかしながら、1990年代以降、大手メーカーによる取引制度の改定が多くの業界で相次いで行われ、販社や特約店の再編、オープン価格制の導入、リベートの廃止や簡素化と出荷価格の引き下げ、配送・発注・情報システムの基準設定などが図られています。これは、小売・卸構造の変容、大手小売チェーン企業による調達チャンネルの再編成といった環境条件の変化に伴い、メーカーの旧制度が形骸化し弊害が顕著になったためです。また、情報システムの高度化や海外流通企業の進出を契機とするメーカーと小売業との直接取引チャンネルの出現も、新たな制度づくりやチャンネル戦略を必要とするものです。このような取引制度とチャンネル戦略の問題は重要な研究課題であり、また講義でも取り扱う主要なテーマの一つです。

..... | 書 | 籍 | 紹 | 介 |

地域の自立的発展と空間構造 北海道開発への新機軸を求めて

伊藤昭男 編著

2008年4月28日刊

現代史料出版

3,360円

ISBN 978-4-87785-163-7



疲弊の度合いを強めつつある北海道の地域経済。本書では、活力と魅力に満ちた地域創造のため、地域空間の固有性を重視した地域経済の自立が考察されています。これまでの再生マニュアルを各地域に等しく当てはめるのではなく、それぞれに発想の転換と新機軸が必要だという立場から、編著の伊藤昭男教授を筆頭に、阿部秀明教授、田辺隆司教授、佐藤博樹准教授など本学の研究者をはじめとした7名の執筆陣が、空間経済学、公共経済学、環境保全論、環境経済学、農業政策論といった多角的な研究の視点からアプローチを行っています。開発の歴史や方式において特異な固有性をもつ北海道を対象に、今後の地域経済再生を考察する上での新たな切り口を示しています。

2008年度 後期行事予定

[2008年]

9月27日(土)	大学祭
29日(月)	後期講義開始
10月4日(土)	第3回オープンキャンパス
12月24日(水)	冬季休業開始

[2009年]

1月8日(木)	冬季休業終了
9日(金)	講義再開/月曜日分振替講義日
10日(土)	月曜日分振替講義日
17日(土)・18日(日)	大学入試センター試験
21日(水)	海外語学留学生帰国(中国)予定
31日(土)	卒業論文提出期限(4年次)
2月2日(月)	後期講義終了
4日(水)~6日(金)	成績・採点異議申し立て期間
7日(土)	海外語学留学生帰国(韓国)予定
13日(金)	一般入試
3月2日(月)	第一次卒業生発表
13日(金)	第二次卒業生発表
18日(水)	卒業式・卒業祝賀会
26日(木)	新2・4年次ガイダンス
27日(金)	新3年次ガイダンス

編集後記

新大学に相応しい学報をと企画されてきた北海商科大学学報も、本号をもちまして5号となります。ドッグ・イヤーといわれる昨今、さて10号の頃はどのような状態になるでしょうか。